



バイエル  
**イノーバ<sup>®</sup>DXアツク**  
1キロ粒剤51



バイエル  
**イノーバ<sup>®</sup>DXアツク**  
1キロ粒剤51



®はバイエルグループの登録商標



**Bayer CropScience**

バイエルクロップサイエンス株式会社  
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262  
www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室: ☎ 0120-575-078 (9:00~12:00, 13:00~17:00 土・日・祝祭日をのぞく)

Bayer CropScience





イノーバDXアップ  
1キロ粒剤51

ノビエ2.5葉期まで効いて、  
SU抵抗性雑草にも効果アップ!

田植同時処理もできる

初・中期一発剤、

イノーバDXアップ1キロ粒剤51

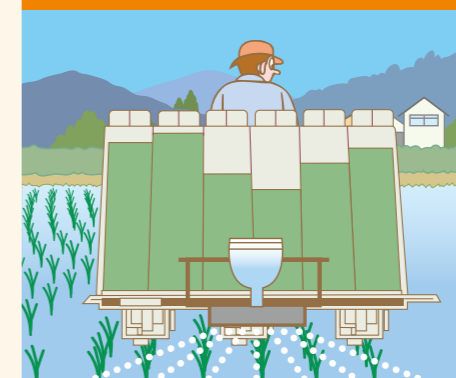
イノーバDXアップ1キロ粒剤51 (試験名: BCH-045L-1kg粒剤) は、バイエルクロップサイエンス株式会社が開発したノビエおよびSU抵抗性コナギ・アゼナ類を含む一年生広葉雑草にも高い効果を示すフェントラザミド、米国デュポン社が開発した広葉および多年生草種にも卓効を示すベンスルフロンメチル、住友化学株式会社が開発したホタルイなどのカヤツリグサ類に高い殺草効果を示すプロモブチド、さらに株式会社エス・ディ・エスバイオテックの開発した水稻への薬害軽減効果を有するダイムロンを合理的に配合した新規の初・中期一発処理除草剤です。フェントラザミドの含有量を3.0%とすることで省力散布の田植同時処理にも使え、かつ、ノビエの2.5葉期まで使用できる初・中期一発処理剤となりました。

イノーバDXアップなら、  
雑草たちはみな、あっぷあっぷです。

2.5葉期まで効いて、  
ヒエも、ヒエ〜!

イノーバDXアップ1キロ粒剤51なら、  
ほとんどすべての雑草が、一発でラクラク防除!

田植同時処理除草剤として  
田植同時散粒機で散布できます



初・中期一発処理除草剤として  
動力散粒機で散布できます



- 田植直後からノビエの2.5葉期まで使える。  
一年生から多年生まで広範囲の雑草に有効で、田植同時にも最適です。
- SU抵抗性雑草(ホタルイ・コナギ・アゼナ類)にも有効です。
- 高い作物選択性で、田植同時散布でも安心。  
効果持続が長く、田植同時処理でも十分な期間、雑草を抑制します。



# 手ごわいSU抵抗性雑草も、確実に防除。

難防除雑草として近年問題となっているSU（スルホニルウレア）抵抗性ホタルイ・アゼナ類・コナギに対しても、優れた除草効果を発揮します。

## SU抵抗性雑草とは？

ここ数年、除草剤を散布してもある種の雑草が数多く残るといった問題が起こっています。一般的によく使用される一発処理剤という除草剤には、幅広く雑草に効く成分としてスルホニルウレア系の除草剤成分（SU剤）が入っています。最近水田に残る問題の雑草を調べたところ、その多くがこのSU剤に高い抵抗性を持つことが確認されたことから、これらを「SU抵抗性雑草」と呼んでいます。



## ■SU抵抗性ホタルイに対する効果

薬剤名	処理薬量	SU抵抗性ホタルイ	
		移植直後	移植後16日
イノーバDXアップ1キロ粒剤51	1kg	4.3	4.0
対照 (A1キロ粒剤)	1kg	1.0	2.0

場所: バイエルクロップサイエンス (株) 結城中央研究所 移植日: 平成17年4月30日  
 処理日: 移植直後...4月30日 / 移植後16日 (イヌホタルイ2葉期)  
 調査日: 移植直後処理...移植後44日 / イヌホタルイ2葉期...移植後58日  
 調査方法: 肉眼観察による評価。0=効果なし、4.0≦著効、5.0=完全枯死



●イノーバDXアップ1キロ粒剤51で処理 ●無処理

## ■SU抵抗性コナギに対する効果

薬剤名	処理薬量 (/10a)	SU抵抗性コナギの葉齢	
		発生前	2葉期
イノーバDXアップ1キロ粒剤51	1kg	100	100
対照日原体	7.5g	0	0

場所: バイエルクロップサイエンス (株) 結城中央研究所温室  
 処理日: 発生前...平成17年3月7日 / 2葉期...平成17年3月16日  
 調査日: 発生前...処理後52日 / 2葉期...処理後43日  
 調査方法: 肉眼観察による評価。(100:完全枯死~0:無作用)

## ■SU抵抗性アメリカアゼナに対する効果

薬剤名	有効成分量 (/10a)	SU抵抗性アメリカアゼナの葉齢		
		発生前	子葉期	本葉1対葉
フェントラザミド原体	30g*	0	1	3
対照日原体	7.5g	62	65	104

場所: バイエルクロップサイエンス (株) 結城中央研究所温室 実施年: 平成14年 調査日: 処理後50日  
 数値は、対無処理区比残草量比率。  
 \*イノーバDXアップ1キロ粒剤51の1kg/10a相当 (無処理区乾重: 85.73g/m<sup>2</sup>)

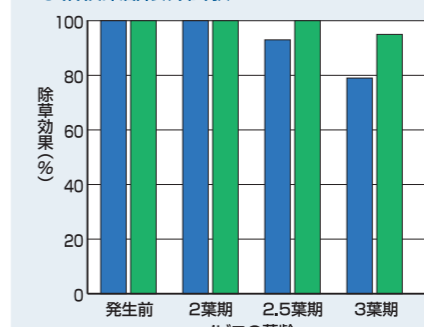
# ほとんどの雑草を抑える、長期持続力。

田植直後からノビエ2.5葉期まで使用可能で一発処理剤としても使用できます。また、一年生から多年生まで、ほぼ全ての水田雑草を長期にわたって抑えます。



## ■ノビエに対する効果

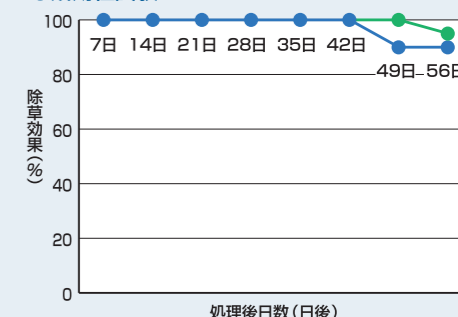
### ●枯殺葉齢限界試験



場所: バイエルクロップサイエンス (株) 結城中央研究所温室  
 調査方法: 処理30~35日後肉眼観察 (100:完全枯死~0:無作用)

フェントラザミド原体の処理薬量

### ●残効性試験

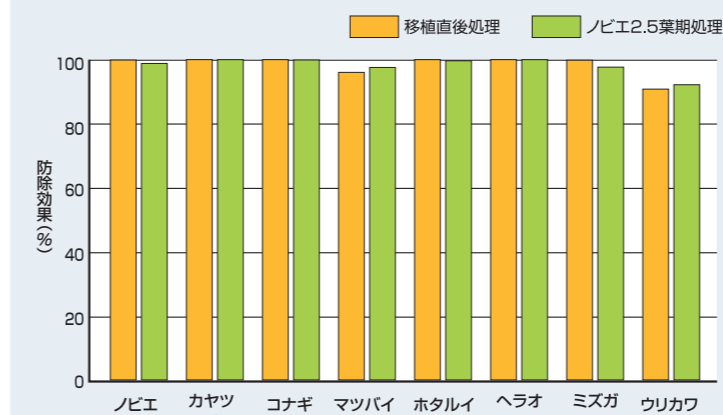


場所: バイエルクロップサイエンス (株) 結城中央研究所温室  
 試験方法: 薬剤処理土壌にノビエ種子を接種  
 調査方法: 肉眼観察 (100:完全枯死~0:無作用)

20g/10a 30g/10a 20g/10a 30g/10a

## ■除草効果

平成16~17年日本植物調節剤研究協会委託試験まとめ (39試験例)

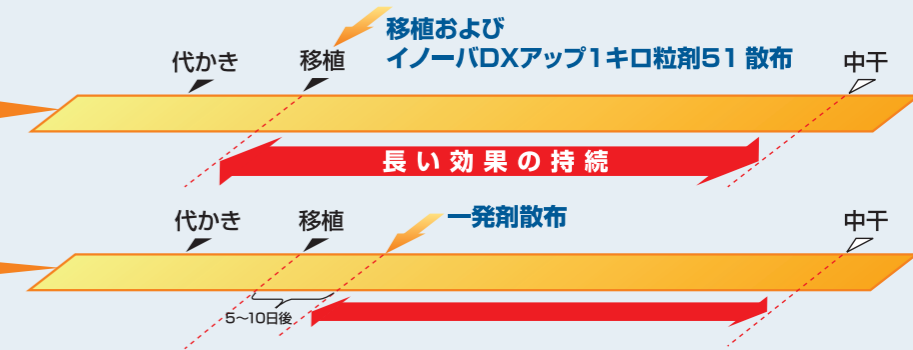


**解説** イノーバDXアップ1キロ粒剤51は、公的委託試験の結果、移植直後からノビエ2.5葉期までの処理において、対象となる雑草に対して高い効果が認められました。

## ■長期にわたる効果の持続性

イノーバDXアップ1キロ粒剤51の除草効果は持続性が長く、田植と同時に処理しても既存の一発剤と同じ期間まで雑草を長く抑えます。

従来の田植後に処理。





# 田植同時で実現する、ムラなく安定した効果。

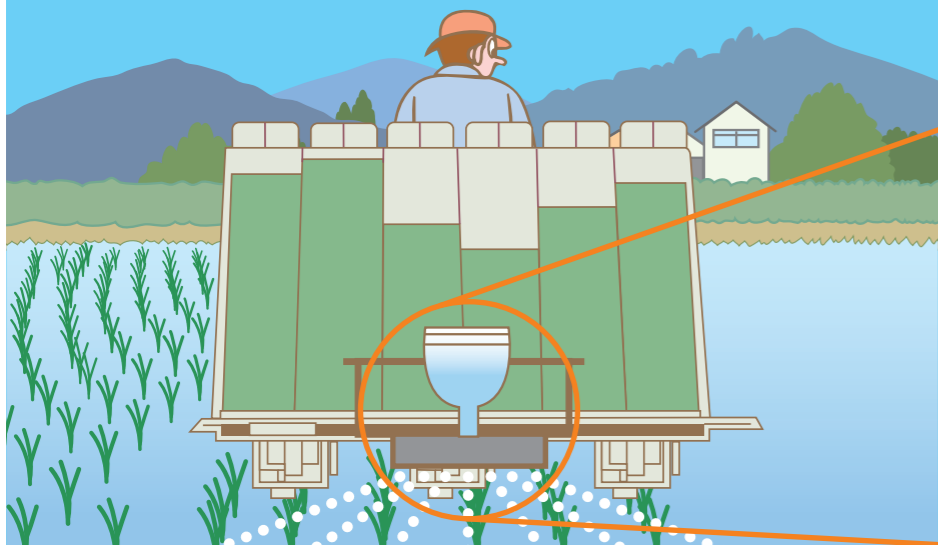
田植同時散粒機を使うことでより均一に散布でき、安定した効果が期待できます。  
また、散布時の湛水深や散布後の入水時間などの影響をほとんど受けません。

## 田植同時処理除草剤として

イノーバDXアップ1キロ粒剤51だからできる、  
田植同時のこんなメリット!

- 省力** 田植後に行っていた従来の除草作業が省略できます。
- 効果** 田植同時散粒機を使うことで均一散布が可能。安定した効果が期待できます。
- 安心** 田植と同時に除草剤散布をしてしまうので、散布適期を逃しません。

イノーバDXアップ1キロ粒剤51の田植同時処理は、田植同時散粒機で散布。



### 田植同時処理時の湛水深による除草効果および水稻への影響

バイエルクロップサイエンス(株) 結城中央研究所農場

	処理時の湛水深	ノビエ	ミスガヤツリ	コナギ	マツバイ	ホタルイ	広葉	ウリカワ	イネに対する影響
イノーバDXアップ 1キロ粒剤51	0cm	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	極微
	8cm(早期)	◎	○	◎	◎	◎	◎	—	極微
	3cm(普通期)	◎	○	◎	—	◎	◎	◎	極微

移植日:早期...平成17年4月26日 普通期...平成17年5月31日  
調査日:早期...移植後62日 普通期...移植後43日

◎有効 ○やや有効

### 田植同時処理後の入水時間による除草効果および水稻への影響

バイエルクロップサイエンス(株) 結城中央研究所農場

	入水開始時間	ノビエ	ミスガヤツリ	コナギ	ホタルイ	広葉	ウリカワ	イネに対する影響
イノーバDXアップ 1キロ粒剤51	3時間	◎	◎	◎	◎	◎	◎	極微
	6時間	◎	◎	◎	◎	◎	◎	極微
	24時間	◎	◎	◎	◎	◎	◎	極微

移植日:平成17年5月31日 調査日:移植後43日

備考:田植同時処理24時間後に入水しても十分な除草効果が得られていますが、実際の場面では、田植後速やかに入水することが望ましいです。

◎有効 ○やや有効

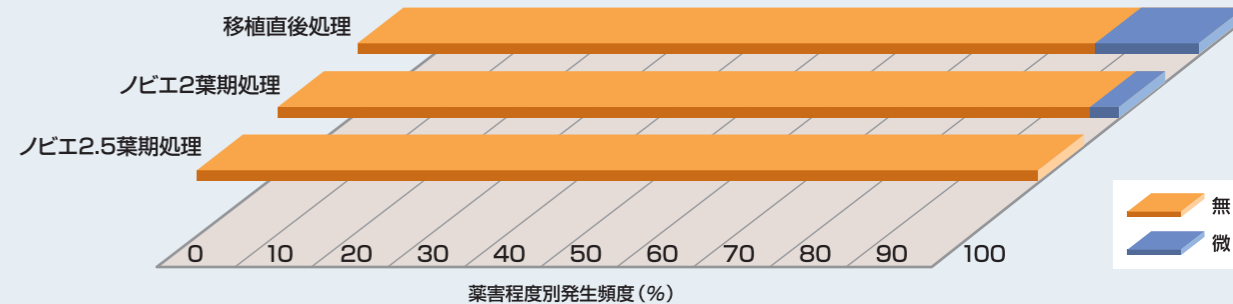
# 優れた選択性で、田植同時処理も安全。

水稻に対して優れた選択性を有するので、田植直後でも安心して使用できます。  
倍量を散布しても、水稻の草丈や茎数にほとんど影響しないことが確認されています。

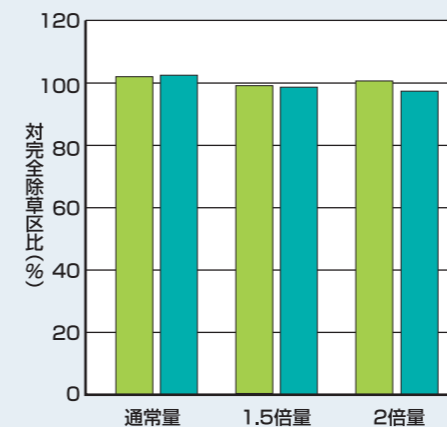


### 移植水稻に対する安全性

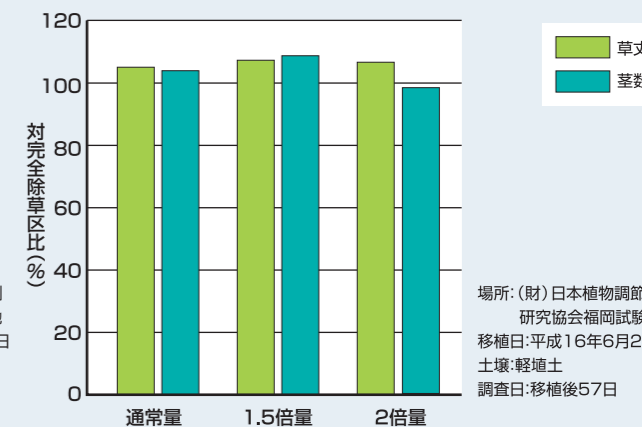
平成16~17年日本植物調節剤研究協会委託試験まとめ(39試験例)



### 倍量薬害試験 (移植直後処理)



場所:(財)日本植物調節剤研究協会新潟試験地  
移植日:平成16年5月22日  
土壌:埴壤土  
調査日:移植後57日



場所:(財)日本植物調節剤研究協会福岡試験地  
移植日:平成16年6月2日  
土壌:軽塩土  
調査日:移植後57日



# 上手な使い方、除草効果をより確実なものに。

確実で安定した除草効果を発揮させるためには、使い方がポイントです。  
イノーバDXアップ1キロ粒剤51は、田植同時処理除草剤としてはもちろん、  
ノビエ2.5葉期までの一発処理剤としても、その効果を発揮します。

確実な  
除草効果を  
得るために  
必ずお読み  
下さい。

## 田植同時処理

### 1 圃場条件

散布後3~4日間湛水深を保つことができる圃場で使用して下さい。

### 2 代かき、整地、植付け

整地、代かきは丁寧に行ってください。畦畔からの田面水の流亡がないよう畦畔管理を行ってください。水稻の植付けは丁寧に行い、浅植えや浮き苗が生じないようにして下さい。

### 3 除草剤の散布方法

水尻を止めて通常の状態に移植作業(薬剤散布)を行ってください。移植開始前、散粒機の取扱説明書(散布目安表など)を参考に、適正な散布量が得られるよう散布量調節ツマミで調整して下さい。また、移植中は容器内の薬剤残量を確認しながら、適量散布して下さい。

### 4 散布後の水管理

田植終了後は、速やかに所定の湛水深(5cm程度)まで入水し、田面が露出しないようにして下さい。田植後3~4日間は通常の湛水深を保ち、田面が露出しないようにし、落水やかけ流しはしないで下さい。差し水は、急激に行くと水口付近の薬剤処理層がこわれる為、静かに行ってください。

## 田植後散布(初・中期一発処理剤)

### 1 代かき、整地、植付け

整地、代かきは丁寧に行ってください。畦畔からの田面水の流亡がないよう畦畔管理を行ってください。水稻の植付けは丁寧に行い、浅植えや浮き苗が生じないようにして下さい。

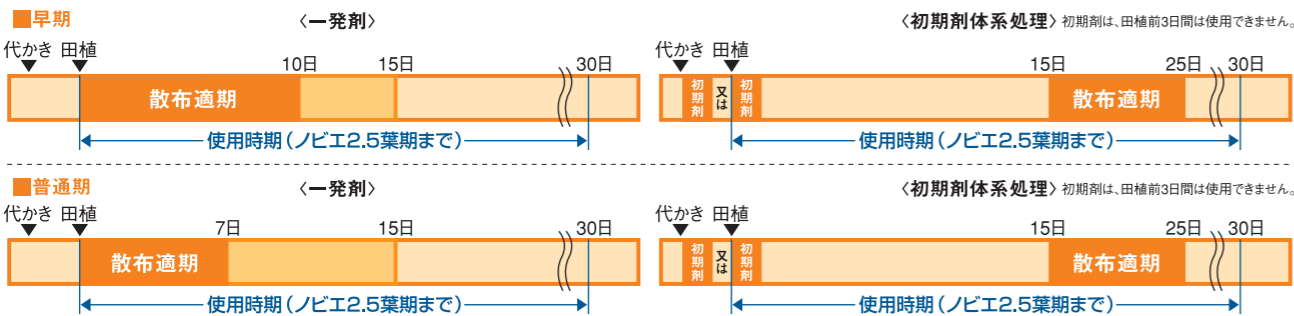
### 2 除草剤の散布方法

短管および長管噴頭、多孔ホース、電動散粒機、手回し散粒機などを用いての散布が可能です。手振り散布も可能です。

### 3 散布後の水管理

処理後3~4日間は通常湛水深を保ち、田面が露出しないようにし、落水、かけ流しはしないで下さい。差し水は急激に行くと水口付近の薬剤処理層がこわれるため、静かに行ってください。

■使用適期 (本剤の使用時期はノビエ2.5葉期までですが、散布時期の目安として移植後の日数で示しました)



## 適用雑草と使用方法

(2010年4月現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り 使用量	総使用回数	使用方法	適用地域	
移植 水稲	水田一年生雑草 及びマツバイ、 ホタルイ、 ミスガヤツリ、 ウリカワ、 ヒルムシロ、セリ、 オモダカ、クログワイ、 アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	砂壤土~ 埴土	1kg	ダイムロン 3回以内 (育苗箱散布は 1回以内、 本田では 2回以内)	本剤のみ 1回	田植同時 散布機で 施用	全域 (北海道、 東北を除く) の普通期および 早期栽培地帯
		移植直後~ ノビエ2.5葉期ただし、 移植後30日まで			フェントラザミド 1回	フロモブチド 2回以内		
直播 水稲	水田一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ ミスガヤツリ	稲1葉期~ ノビエ2.5葉期ただし、 収穫90日前まで	埴土~ 埴土		ダイムロン 2回以内	ペンシルフロン メチル 2回以内	湿水散布	全域 (北海道、 東北を除く)

## 処理時期と殺草スペクトラム

処理時期	一年生雑草							多年生雑草								
	ノ ビ エ	カ ヤ ツ リ グ サ	コ ナ ギ	コ ソ ウ ナ 抵 抗 ギ 性	ア ゼ ナ	ア ス ゼ 抵 抗 ナ 性	ホ タ ル イ	ホ ウ タ 抵 抗 イ 性	ミ ス ガ ヤ ツ リ	ウ リ カ ワ	ヘ ラ オ モ ダ カ	ヒ ル ム シ ロ	セ リ	シ* ズ イ	オ* モ ダ カ	ク* ロ グ ワ イ
ノビエ発生前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
ノビエ2.5葉期	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎~○

◎:極大 ○:有効 △:やや不十分 ×:不十分

\*:本剤の一回使用では完全に防除できない場合があるので、これらの雑草の防除には有効な薬剤との組合せで使用して下さい。

## 有効成分の含有量、物理的性質および安全性

登録番号:第21571号

農薬名:イノーバDXアップ1キロ粒剤51

種類名:ダイムロン・フェントラザミド・フロモブチド・ペンシルフロンメチル粒剤

試験名:BCH-045L-1kg粒剤

製剤の安全性

●人畜毒性:普通物

●魚毒性:LC5096hr(コイ) 75ppm  
EC5048hr(ミジンコ) >1,000ppm

種類名(試験名)	フェントラザミド(NBA-061)	ペンシルフロンメチル(DPX-84)	ダイムロン(SK-23)	フロモブチド(S-47)
化学名および含有率	4-(2-クロロフェニル)-N-シクロヘキシル-N-エチル-4,5-ジヒドロ-5-オキソ-1H-テトラゾール-1-カルボキシサミド 3.0%	メチル=α(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イルカルバモイルスルファモイル)-O-トルアート 0.51%	1-(α,αジメチルベンジル)-3(βラトリル)尿素 4.5%	(RS)-2-プロモ-N-(α,αジメチルベンジル)-3,3-ジメチルブチルアミド 9.0%
構造式				
物理化学的性質				
性状	白色結晶	白色個体(粉末)	白色結晶性粉末	白色ないし黄色結晶性粉末
融点	78.5~79.5℃	179.4℃	200~201℃	180.1℃
水溶解度	2.3ppm(20℃)	6.65ppm(20℃)	0.79ppm(20℃)	3.54ppm(25℃)
蒸気圧	5×10 <sup>-10</sup> Pa(20℃)	1.2×10 <sup>-6</sup> Pa以下(50℃)	4.53×10 <sup>-7</sup> Pa(25℃)	5.57×10 <sup>-6</sup> Pa(25℃)

## 注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布して下さい。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布して下さい。本剤の散布適期は以下の通りです。  
ホタルイ、ミスガヤツリ.....2葉期まで  
ウリカワ.....2葉期まで(但し、北陸は発生始期まで)  
ヒルムシロ.....発生期まで  
クログワイ、オモダカ.....発生始期まで  
セリ.....再生前から再生始期まで  
アオミドロ・藻類による表層はく離.....発生前  
※クログワイ、オモダカは発生期間が長く、遅い発生のものでには十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用して下さい。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3~5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布して下さい。また、極端な浅水や深水での使用は避けて下さい。
- 散布後3~4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないで下さい。また、入水は静かに行ってください。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付作業は丁寧に行ってください。
- 未有機物を使用した場合は、特に丁寧に行ってください。
- 以下の条件では葉害を生ずる恐れがあるので使用を避けて下さい。  
①砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)  
②軟弱苗を移植した水田  
③極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田
- 直播水稲に使用する場合は、葉害を避けるため稲の1葉期以降に使用し、稲の根が露出しているときの使用は避けて下さい。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえて下さい。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しないで下さい。
- 本剤は、移植前に生育したミスガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用して下さい。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用するには十分に注意して下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベル記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。



委託試験 成績

年 度	試験場 所	移 植 日	調 査 日	土 質 性 減水深 (cm/日)	作 期	薬 剤 名	処 理 時 期	使 用 量 (g/1a)	残草量(茎葉重対無処理区比)														薬 害 程 度	総 合 評 価				
									ノ ビ	カ ャ ツ リ グ サ	コ ナ ギ	ア ゼ ナ 類	ク サ ネ ム	ハ リ イ	そ の 他 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ヘ ラ オ モ タ カ	小 計	ミ ス カ ヤ ツ リ	ウ リ カ ワ	ク ロ グ ワ イ			オ モ ダ カ	ヒ ル ム シ ロ	キ ャ ャ ャ ャ ャ ャ	セ リ
平成16年	佐渡農業技術センター	5月13日	7月1日	沖積 埴壌土 (1.0)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100g	0	t									5			1	無	A0				
							+11	100	0	0													27		4	無	A0	
							+14	100	0	t													46		6	無	A0	
							A1キ口粒剤	+14	100	1	2												9		2	無		
							無処理(乾物重)(g)		30.7	26.6			t	0.7	58.0	7.9	0.1						10.2		76.2			
平成17年	植調新潟試験地	5月17日	7月1日	沖積 砂質 埴壌土 (0.5)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51 田植同時 (12.5m <sup>2</sup> )	+0	100	t	0											t	無	A0					
							無処理(乾物重)(g)		175.2	0.8			1.6	10.0	187.6	t								187.6				
平成17年	長野南信農試	5月17日	6月28日	洪積 砂壌土 (2.0)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	t	0	t											t	無	A0				
							+10	100	0	0	0														t	無	A0	
							+13	100	4	0	0															3	無	A0
							C1キ口粒剤	+5	100	0	0	t														t	無	
無処理(乾物重)(g)		130.0	0.0	17.5			5.4	4.7	7.2	164.8							(0.2)	(0.4)		164.8								
平成16年	石川農試	5月10日	6月29日	沖積 埴壌土 (1.5)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	0													t	無	A0				
							+12	100	t																t	無	A0	
							+15	100	0																	1	無	A0
							D1キ口粒剤	+3	100	0																1	無	
							+12	100	3																	1	無	
+15	100	t																	1	無								
無処理(乾物重)(g)		17.6				6.2	29.4	53.2	8.9	0.8									62.9									
平成16年	植調福井	5月3日	6月20日	洪積 砂壌土 (2.5)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	0	0												0	無	A0				
							+12	100	0	0															0	無	A0	
							+15	100	0	0																t	無	A0
							E1キ口粒剤	+8	100	1	0															t	無	
無処理(乾物重)(g)		5.7	11.4			3.2	4.0	24.3	1.5	5.8									31.6									
平成16年	植調牛久	4月15日	6月17日	洪積 埴壌土 (1.0)	早期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	0	0	0											t	極微	A0				
							+13	100	0	0	0														t	無	A0	
							+16	100	0	0	0														t	無	A0	
							Fフロアブル	+0	50ml	0	0	0														t	無	
							+16	50ml	0	0	0															t	無	
無処理(乾物重)(g)		82.0	0.9	9.5		2.2	2.6	11.8	109.0	12.0	3.2					13.4	6.2		143.8									
平成16年	埼玉農総研	5月28日	7月20日	細粒灰色低 地土灰色系 埴壌土 (1.5)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	0	0	0	t										t	無	A0				
							2.0L	100	0	0	0	0													3	無	A0	
							2.5L	100	0	0	0	0														1	無	A0
							C1キ口粒剤	2.0L	100	0	0	0	6													4	無	
							無処理(乾物重)(g)		78.3	0.1	5.9	0.5		0.2	85.0	66.7	1.6	(10.7)	(29.3)							153.3		
平成16年	植調三重	5月3日	6月14日	沖積 埴壌土 (1.0)	早期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	0	0	t											無	A0					
							+8	100	0	0	0														無	A0		
							+10	100	1	0	0															無	A0	
							A1キ口粒剤	+14	100	0	0	t														t	無	
無処理(乾物重)(g)		53.1	1.8	88.8		2.1	16.0	5.9	167.8	7.0	0.4					3.18	30%	25%	178.3									

年 度	試験場 所	移 植 日	調 査 日	土 質 性 減水深 (cm/日)	作 期	薬 剤 名	処 理 時 期	使 用 量 (g/1a)	残草量(茎葉重対無処理区比)														薬 害 程 度	総 合 評 価									
									ノ ビ	カ ャ ツ リ グ サ	コ ナ ギ	ア ゼ ナ 類	ク サ ネ ム	ハ リ イ	そ の 他 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ヘ ラ オ モ タ カ	小 計	ミ ス カ ヤ ツ リ	ウ リ カ ワ	ク ロ グ ワ イ			オ モ ダ カ	ヒ ル ム シ ロ	キ ャ ャ ャ ャ ャ ャ	セ リ	藻 類	表 層 剥 離	合 計		
平成16年	兵庫農試	6月8日	7月20日	沖積 埴土 (0.5)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100g	1	0	0												無	A0									
							+6	100	3	0	0															無	A0						
							+8	100	0	0	0															2	無	A0					
							G1キ口粒剤	+5	100	0	0	t														t	無						
							無処理(生体重)(g)		638	1	2761		116	361	204	4081	343	106	(96)	(131)		(76)	50	70%	25%	4580.0							
平成17年	兵庫農試	5月21日	6月30日	沖積 埴土 (1.6)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51 田植同時 (25a)	+0	100	t	0												t	無	A0									
							G1キ口粒剤	+5	100	0	0															t	無						
							無処理(生体重)(g)		116.7	633.3		100.0	116.7	966.7											966.7								
平成16年	植調山口	6月5日	8月2日	洪積 砂壌土 (2.7)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	0	0	0											t	無	A0									
							+9	100	1	0	0														4	無	A0						
							+11	100	2	0	0															6	無	A0					
							A1キ口粒剤	+11	100	0	0	0														0	0	4	無				
無処理(乾物重)(g)		128.6	7.4	4.4		1.6	4.9	11.8	158.7	17.7	2.8								9.1	50%	188.3												
平成17年	鳥取農試	5月20日	6月30日	沖積 埴土 (1.0)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	t	0	0												無	A0									
							+9	100	0	0	0															0	1	(t)	無	A0			
							+11	100	t	0	0																13	(t)	無	A0			
							C1キ口粒剤	+9	100	t	t	t															1	0	(23)	無			
無処理(乾物重)(g)		144.1	3.8	2.5		30.6	14.1	195.1	5.6	(5.5)									11.4	60%	85%	212.1											
平成16年	植調愛媛	5月5日	6月26日	沖積 埴土	早期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	t	0	0												無	A0									
							+9	100	0	0	0															0	0	0	無	A0			
							+15	100	0	0	0																0	0	0	無	A0		
							A1キ口粒剤	+9	100	0	0																	0	t	30	t	無	
無処理(乾物重)(g)		70.8	22.6			21.9	11.9	127.2	215.0	3.7									2.8	15.8	100%	364.5											
平成17年	高知農技センター	4月6日	5月26日	沖積 埴土 (1.0)	早期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	3	0	0	0											無	A0									
							+12	100	t	0	0	1														1	2	1	0	42	(16)	無	A0
							+16	100	2	0	0	t																2	0	22	(7)	無	A0
							A1キ口粒剤	+16	100	1	0	0	5																5	0	12	(15)	無
無処理(乾物重)(g)		53.9	0.3	0.2	1.0		6.0	62.2	123.6	0.7	0.1	(20.4)							45%	3%	124.4												
平成16年	植調大分	6月12日	7月24日	沖積 埴土 (0.5)	普通期	イノーバDXアップ 1キ口粒剤51	+0	100	0	0	1													無	A0								
							+9	100	0	0	0	t	</																				